

宮田直彦のエリオット波動レポート

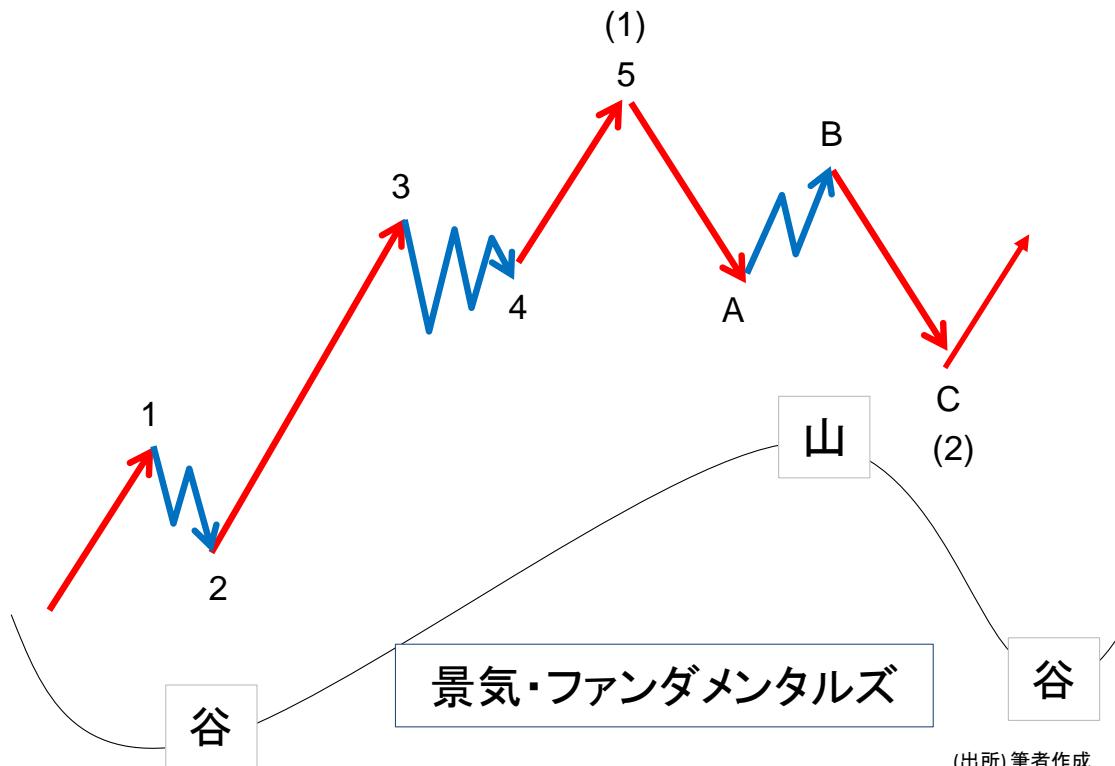
マンスリー・フォーカス

【金価格】

歴史的天井を付け、長期ベアマーケットが進行中。2023年10月頃にかけて1500ドル割れの場面があるかもしれません。

【WTI 原油先物価格】

3月高値から第(2)波調整が進行中、想定レンジは85.41—62.43ドル。長期上昇トレンドという見方には変更ありません。



エリオット波動とは

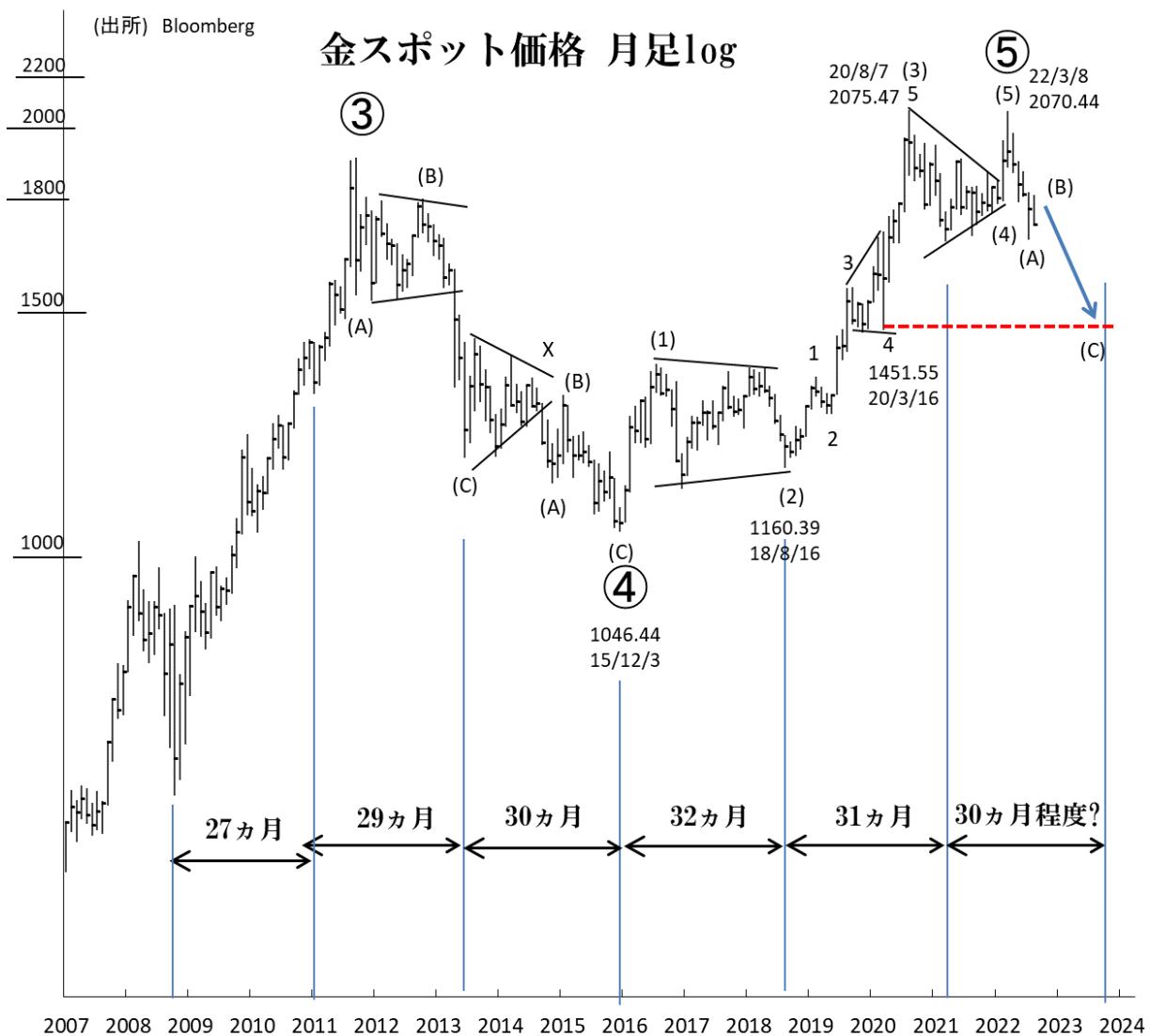
株式・為替動向を予想する心強いテクニカル手法

米国人ラルフ・ネルソン・エリオットが提唱した、今後の株式や為替など市場価格の動向を予想する手法です。相場は5つの上昇波と3つの下降波（合計8つの波）で一つの周期を作るパターンに従って展開するとされます。

このパターンは集団心理によるもので、数分から数十年といった様々な時間軸において観察されます。

フィボナッチ数列、黄金分割比率をチャート分析に初めて導入したのもエリオットです。

金価格



歴史的天井を示現、ベアマーケットに入った金価格

今年2月以来、半年ぶりに金価格のアップデートを行いましょう。

結論から書きますと、**金価格は長期的なダブル・トップを形成し、歴史的な天井を付けた可能性が高いでしょう。今年3月からは長期的なベアマーケット(弱気相場)が進行中とみられます。**

エリオット波動の観点からは、2015年末安値(1046ドル)を起点とするプライマリー級の上昇トレンド(第⑤波)が、今年3月に付けた高値(2070ドル)を以て終わったという解釈です。この第⑤波高値は20年に付けた最高値(2075ドル)にわずかに届かない「フェイラー」でした。

当面のリバウンドを経て下落基調再開へ

なお今年3月高値(2070ドル)から7月安値(1680ドル)まで、金価格は19%近く下げていますが、この4カ月半の下落は5波動構成となっています。それは差し当たり(A)波とカウントでき^注、7月からは(B)波のリバウンド局面が進行中とみることができます。

(B)波は三波構成(A-B-C)となるわけですが、そのうち足元でB波が終わりつつあるとみられます。この見方に基づくと、今後1~3カ月はC波の上昇となりそうです。それを以て(B)波は完成することになるでしょう。

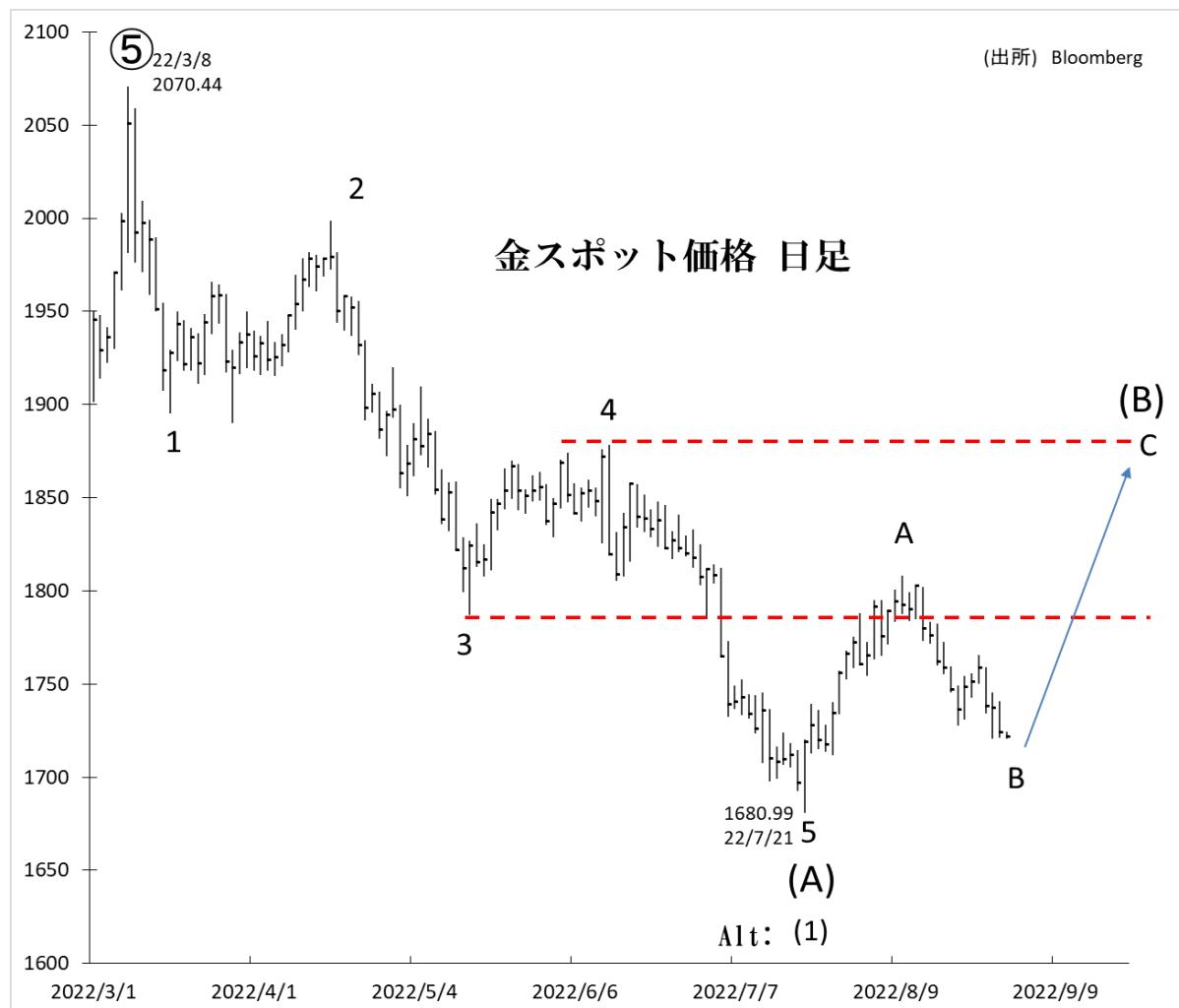
リバウンドの想定レンジは、(A)波の下げ幅に対する38.2%~61.8%戻り水準(1829~1921ドル)が有力です。とりわけ50%戻り水準(1875ドル)は、(A)波の第4波高値(1878ドル)にほぼ合致しており、(B)波の落ち着きどころとして相応しいとみています。

2023年10月までに1500ドル割れも?!

(B)波の後には(C)波の下落トレンドが続くとみられ、それは先々で1451ドルを目指すのではないかでしょうか。1451ドルというのは20年3月に付けた安値ですが、それはレッサー・デイグリー4波安値に相当します。

金価格には、およそ30カ月程度の周期で安値を付ける傾向が確認されています。21年3月(安値1676ドル)以来の現行30カ月サイクルは23年10月頃に終わる見込みですが、この頃にかけて金価格は1500ドルを下回る場面があるかもしれません。

(注)3月から7月までの5波動の下げを第(1)波、その後のリバウンドを第(2)波とラベリングすることも可能です。



WTI 原油先物価格



2年間の強気相場の後に訪れた調整局面

WTI 原油先物価格(以下 WTI)は、20 年 4 月からのインター・ミディエイト級の上昇第(1)波を今年 3 月高値(130.50 ドル)で完成しました。およそ 2 年間の強気相場を走り終えた WTI は現在、インター・ミディエイト級の第(2)波の調整局面をやっているところです。

8 月 16 日には一時 85.73 ドルまで下げ、ロシアのウクライナ侵攻開始(2 月 24 日)より前の、1 月下旬以来の低水準となりました。

エリオット波動に基づくと、第(2)波の下値として適当なのは、第(1)波中第 4 波(レッサー・ディグリー第 4 波)が動いた領域、すなわち[85.41—62.43 ドル]です。3 月高値から 8 月安値まで WTI は 34%超の下げとなり、想定レンジ上限に肉薄しましたが、依然下落余地は残っています。

長期上昇トレンドという見方に変更なし

一方、長期的な上昇トレンドという見方に変更はありません。

今回の第(2)波の調整を終えた後は、インター・ミディエイト級第(3)波の強気局面入りが予想されます。

この第(3)波により WTI は、08 年の過去最高値・147.27 ドルを超える可能性が高いでしょう。

※当レポートは、情報提供を目的としたものであり、特定の商品の推奨あるいは特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。

※当レポートに記載する相場見通しや売買戦略は、ファンダメンタル分析やテクニカル分析などを用いた執筆者個人の判断に基づくものであり、予告なく変更になる場合があります。また、相場の行方を保証するものではありません。お取引はご自身で判断いただきますようお願いいたします。

※当レポートのデータ情報等は信頼できると思われる各種情報源から入手したものですが、当社はその正確性・安全性等を保証するものではありません。

※相場の状況により、当社のレートとレポート内のレートが異なる場合があります。

当社サービスに関する注意事項

・取引開始にあたっては契約締結前書面をよくお読みになり、リスク・取引等の内容をご理解いただいた上で、ご自身の判断にてお願ひいたします。

・当社の店頭外国為替証拠金取引および取引所株価指数証拠金取引は、元本および収益が保証されているものではありません。また、取引総代金に比較して少額の資金で取引を行うため、取引の対象となる金融商品の価格変動により、多額の利益となることもありますが、お客様が差し入れた証拠金を上回る損失が生じるおそれもあります。また、各金融市場の閉鎖等、不可抗力と認められる事由により店頭外国為替証拠金取引や取引所株価指数証拠金取引が不能となるおそれがあります。

・店頭外国為替証拠金取引における取引手数料は無料です。

・取引所株価指数証拠金取引における委託手数料は注文が成立した日の取引終了後の値洗い処理終了時に証拠金預託額より、新規および決済取引のそれぞれに徴収いたします。手数料額は、通常 1 枚あたり片道 303 円(税込)、NY ダウリセット付証拠金取引および NASDAQ-100 リセット付証拠金取引は 1 枚あたり片道 33 円(税込)です(ただし、建玉整理における委託手数料は無料です)。

・当社が提示するレートには、買値と売値に差(スプレッド)があります。流動性が低くなる場合や、天変地異または戦争等による相場の急激な変動が生じた場合、スプレッドが広がることがあります。

・店頭外国為替証拠金取引に必要な証拠金額は、個人のお客様の場合、取引総代金の 4%です。法人のお客様の場合、取引総代金に、金融先物取引業協会が算出した通貨ペアごとの証拠金率(為替リスク想定比率)を取引の額に乗じて得た額となります。為替リスク想定比率は、金融商品取引業等に関する内閣府令第 117 条第 27 項第 1 号に規定される定量的計算モデルを用い算出します。なお、証拠金率(為替リスク想定比率)は変動いたします。取引所株価指数証拠金取引に必要な証拠金額は、商品ごとに当社が定める 1 枚あたりの必要証拠金の額に建玉数量を乗じる一律方式により計算されますが、1 枚あたりの必要証拠金額は変動いたします。

金融商品取引業 関東財務局長(金商)第 2797 号

【加入協会】日本証券業協会 一般社団法人 金融先物取引業協会

株式会社マネースクエア
